

2017年1月12日(木)

震災・復興とリスクマネジメント (○) 国際都市神戸と世界の文化 () 提言：国際紛争・対立から平和・協調へ () グローバルサイエンスと拠点都市神戸 () その他 ()

[概要]

防災学習を実施しました(平成29年1月12日)

1・2年生 防災学習「減災アクションカードゲーム」

[概要]

1 目的

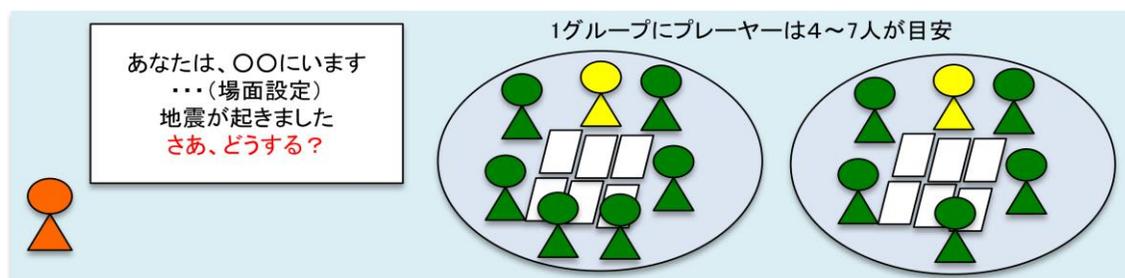
本校 SGH 仙台交流プログラムメンバー (DR3 プロジェクトメンバー) による減災教育を通して、

- (1) 日本が地震を含めた自然災害の影響を受けやすいことを再確認する
- (2) ハザードマップを活用して、本校周辺が土砂災害の受けやすい地域であることを認識する
- (3) 減災アクションカードゲーム (久松ほか, 2015) の実施を通して、災害発生時におけるファーストアクションを考える機会を作る

ことを主たる目的としています。

【減災アクションカードゲームの特徴】

- (1) ルールが簡単である。
- (2) 災害発生時の「とっさの判断」に注目し、行動選択を促す。
- (3) 行動選択の理由を説明し合うことで、参加者それぞれが想像した災害遭遇時の様々な状況を共有することができる。
- (4) ゲームを体験した側が、次にリーダーとしてゲームを運営することができる。
- (5) 日本人だけでなく、外国人を対象としても実施可能である。
- (6) 右図のようなカードを用いる。
- (7) 小グループで実施する。



(8) 実施した問題例

**あなたはスーパーのトイレにいます。
大きな地震が発生しました。**

さあ、どうする! ?

活動の様子



5年生が災害についての事前レクチャーをしています



問題が出てから3秒以内にカードを取ります



どうしてそのカードを選んだのかクラス全体で共有しました



減災意識の高まったクラスを「減災リーダー学級」として認定証を授与しました

3 生徒感想

(参加生徒)

- ・災害と一口に言っても状況が違ったりして、その時によって思考をめぐらせないといけないと思った。(2年生男子)
- ・カードゲームを行うことでより言葉で説明するよりもイメージが付きやすかった。カードの意味を班で共有することでお互いの意見が理解できてよかった。(2年生女子)
- ・このカードゲームで、災害が起きてからすぐに行動を起こして、一刻も早く避難をすることの大切さがよく分かった。こんなときにはどう動くなど、ある程度、家族と考えてみたいと思った。(1年生女子)

(ゲーム運営生徒)

- ・仙台交流で学んだ減災教育を、自分の学校で行えたことは私たち DR3 のメンバーにとっても自分達の活動や学びを伝えることができ、学校の生徒にとっても災害への意識を持ってもらうことが出来たのではないかと思います。私の担当クラスは一人ひとり興味を持って楽しんでアクションカードゲームに取り組んでいた姿が印象に残っていて、このカードゲームを通じて生徒にも減災や防災への理解や意識が感じられました。今回の活動は学んだ生徒だけでなく、伝える側である私たちにとっても大きな進歩だと思うのでこれからより良い活動を作れるようにしたいです。
- ・今回初めて本校の1、2年生を対象とした減災教育を DR3 が行いました。私は減災教育のリーダーを務めましたが、7クラス一斉に授業ということもあり、本番直前まで慌ただしくなってしまったので、計画的な事前準備の大切さを改めて痛感しました。授業内で行った減災アクションカードゲームは、DR3 の活動の中でも幅広く活用されており、この機会に校内の生徒に広めることができたので、今後の活動に繋がる大きな一歩になったのではないかと思います。
- ・昨年の夏に神戸市立渦が森小学校で実施したときとは違い、年齢層が高くなっているのので、考えの一つ一つが深い印象を受けました。それに伴い、私自身もより深くまで考えることができました。その点で、今回の減災学習は、実施側・参加側の双方にとって得るものの多い時間になったと思います。今後も、継続できるようにしていきたいです。

3～5年生 防災学習「クロスロード」

[概要]

1 目的

阪神淡路大震災時の対応を経験した神戸市職員 6098 人を対象に、震災時の担当業務について、インタビューによるアンケート調査が実施された。震災当時、多くの職員が難しい意志決定・判断に直面

し、その判断は多種多様な場面で24時間、数ヶ月間発生していた。

この防災学習は、阪神大震災で実際に職員が直面した判断場面を生徒に投げかけ、生徒に自らの問題として考えさせ、他の生徒の意見や価値観を共有させながら、防災意識を高めることを目的としている。災害対応はジレンマを伴う重大な決断の連続である。阪神大震災の際は、職員が対応を迫られた難しい判断状況がたくさんあった。防災学習『クロスロード』は職員の貴重な体験を教材として、グループやクラスで自分とは異なる意見や価値観、立場に気づかせる活動である。

2 学習の様子

(1) 判断する9種類の問題には難易度があるので、各学年で3種類を選択します。

「A」易：後から修正が可能、→「C」難：生命や人権に関わる判断

〈問題例 神戸編 1008〉「A」

あなたは… 神戸市の避難所 食料担当職員	地震発生から数時間後。避難所Aには3000人が避難していると確かな情報が得られた。現時点で確保できた食料は2000食。追加の見通しはない。まず、2000食を届ける？
----------------------------	--

YESの問題点→配布されない1000人を選ぶ難しさと不公平

NOの問題点→避難者からの激しい苦情と食料を送ってくれた自治体からの批判

〈問題例 神戸編 1016〉「C」

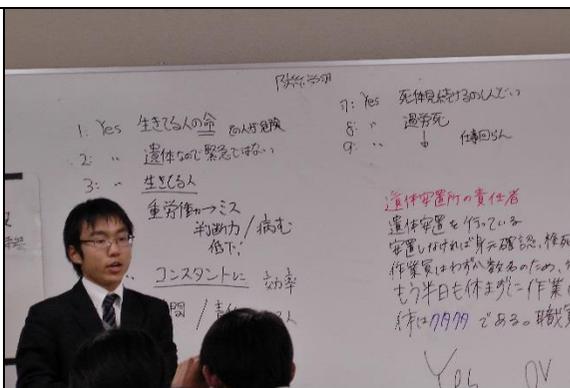
あなたは… 遺体安置所の 責任者	遺体安置を行っている。安置しなければ身元確認、検死、火葬許可と進めることができない。作業員はわずか数名のため、増え続ける遺体にまったく作業が追いつかない。もう半日も休まずに作業していて体はクタクタである。職員に休憩の指示をする？
------------------------	--

YESの問題点→安置作業の遅れ、遺体損傷、遺族の不満

NOの問題点→職員の心身の健康不安、作業効率低下による遅れや停滞

(2) 小集団とクラスで判断

初めに小集団で意見交換を行い小集団として判断します。全小集団の判断をクラスで集約し、クラスで話し合っクラスとしての判断を決定します。



3 生徒感想

・どの問題も自分の選択が正しかったか分かりません。条件や立場が変われば正反対の判断になると思います。客観的に判断しようとするほど、被災という非日常の状況での判断を考えることは難しかったです。(3年)

HP 記事 UP 用

- 報道に関する事例はとても難しかった。今の世の中では放送に対して必ず批判があるので、当事者同士の歩み寄りが大切だと気づきました。どの事例も話し合うことが解決の第一歩だと思います。(3年)
- 震災を経験した人がボランティア活動をすることが大切だと思った。経験した人にしか分からないことも多いからだ。そのような人が災害時に駆けつけることは難しいので、何らかの形で経験を記録・発信して欲しい。(4年)
- 一つの判断が被害を大きくし、取り返しのつかないことになることは怖いと思いました。ベストな判断のためには過去の失敗経験を生かすことが必要だと思いました。(4年)
- 小集団で答えが一致する問題は一つもなかった。多角的な視点が必要であり、冷静に考えることが必要だと感じた。“Yes or No”の選択だけでなく、判断・行動までの時間が重要であることも分かった。(5年)
- 予測できない災害について予め災害発生時の状況を想定しておくことは、自分の備えになるだけでなく心の支えになると思いました。また、想定外の事態に直面しても何も想定しないよりもマシな対応ができるかな。(5年)
- どう判断しても問題があるので、私には判断することは荷が重く、そのような立場にはなりたくない。しかし、いつかは人生の中で大きな決断をすることや、大きな災害に向き合うことがあると改めて思いました。(5年)